

国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇小学校

教諭 〇〇 〇〇

1 日 時 平成24年11月〇日

2 学年・学級 第4学年〇組

3 指導事項

(1) 読むこと オ

文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。

(2) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ (7)

言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。

4 単元名 「家族やふるさとを思う心をえがいた本を読もう『世界一美しいぼくの村』」

5 言語活動 エ

・紹介したい本を取り上げて、説明すること。

6 単元について

○ 児童の状況

物語文「走れ」の学習では、登場人物の心の動きを場面ごとにとらえる学習をした。文章や会話文などから、人物の気持ちを読み取ることができた。しかし、読み取った内容を発表したり、交流したりする場面になると、理由や根拠を加えて説明できる児童は少ない。全体に自分の考えを発表できる児童は限られており、受け身になりがちな児童が多い。そのため、多様な考えの交流ができにくい。

また、自分の考えが伝わるように話すために、相手に分かりやすく話すといった「相手意識」をもっていない。目的をもって、お互いに考えを出し合い認め合うことで、自分の思考が深まるという経験が少ないのではないかと考えられる。

小グループで学習する時には、ホワイトボードを使用することによって、考えを交流することができつつある。

○ 教材の価値

この教材は「家族」「ふるさと」「愛」など多様なテーマで読むことができる。また、場面構成や、登場人物や情景の描写、セリフ等も工夫されているので、一人一人の感じ方やとらえ方の違いに気付かせることをねらいとするのにふさわしい教材であると考えられる。

読書発表会では、自分と友達の読みの似ているところと違うところを比べることで、児童は自分の認識を深めていくことをねらいたい。加えて、作品を紹介するために自らの感想を深めたり、紹介し合った本への質問や感想を交流したりすることで、さらなる読書意欲を喚起し、児童の読書生活が豊かに広がることを目指している。

○ 指導の工夫

はじめに、「図書室の利用を促すために、読書発表会をする」という課題を児童にもたせる。「本を紹介するためには、何をすればいいのか」をつかむために、学級全体で物語を読み、叙述をもとに人物の気持ちを想像することや物語の最後の一文による効果やメッセージ性について学習する。作品全体を豊かに味わうことで、関連読書への意欲を高め、読書発表会を行う際の感想をもつ手がかりとさせたい。

次に、「家族」「ふるさと」「愛」をテーマにした作品を一人一冊選び、メッセージをつかむ学習を協同で行っていく。その学習の流れとしては、

- ① 小グループにおいてそれぞれ選んだ本を回し読みする。
- ② 自分が選んだ本を読み深める。
 - ・ 物語の叙述をもとに場面の様子を想像し、人物の気持ちの変化をとらえる。
 - ・ 行動や会話などから「家族」「ふるさと」「愛」などを思う気持ちを読み取る。
 - ・ 読み取ったことを根拠にして、本の持つメッセージをつかむ。
- ③ 自分が紹介する文章を考える。
- ④ 小グループでお互いに交流する。
- ⑤ それぞれの良さを認め合い、お互いの発表のしかたをアドバイスすることで高め合う。

一連の学習の中で、言葉には自分の考えや思ったことを表す大切な働きがあることに気付かせていきたい。また、一人一人の感じ方の違いについて知り、個の成長とお互いを認め合う集団へとつなげていきたい。

7 単元の目標

家族やふるさとを思う心をえがいた図書を読み、自分の読んだ本を紹介するという活動を通して、一人一人の感じ方やとらえ方の違いに気付くことができる。

8 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読むこと	言語に関する知識・理解・技能
興味をもって家族やふるさとを思う心をえがいた本を読もうとしている。	家族やふるさとについての本を読んでの感想を発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることを書いている。	考えたことや思ったことを表す働きがある言葉を抜き出している。

9 指導と評価の計画

次	時	ねらいと学習活動	評価の観点			評価規準
			関心・意欲・態度	読む能力	言語に関する知識・理解・技能	
一	1	学習の見通しをもつ。 ○ 物語を読み、学習のねらいを確かめる。 ○ 初発の感想を書く。	○			物語に興味をもって読み、読み広げや読書発表会などのこれからの活動に意欲をもって取り組もうとしている。 (発言・行動観察)
二	2 3 4	場面の様子や人物の気持ちを読み取り、交流する叙述をもとにヤモの気持ちの変化と家族やふるさとへの思いについて読みとる。 ○ 最後の一文について考えたことを話し合う。		○	○	物語の叙述をもとに場面の様子を想像し、人物の気持ちの変化をとらえている。 (発言・ノート) 考えたことや思ったことを表す働きがある言葉を抜き出している。(ノート)

	5 (本時)	<p>「世界一美しいぼくの村」の紹介したいことを書き、お互いの感じ方の違いを知りその良さを認める。</p> <p>○ 読書発表会を行うことをふまえて、紹介する項目を確かめる。紹介文を書く。</p> <p>○ 紹介文を聞き、ワークシートに振り返りを書く。</p>				お互いの紹介文の良さを見つけて書いている。(発言・ワークシート)
三	6 7 8	<p>家族やふるさとを思う心をえがいた本を読む。</p> <p>○ 家族やふるさとを思う心をえがいた本を探して読む。</p> <p>○ 読んだ本の中から、友だちに紹介したい本を選ぶ。</p>				家族やふるさとを思う心をえがいた本から、興味のある本を選んで読んでいる。(行動観察)
	9 10 11	<p>読書発表会をする。</p> <p>○ 家族やふるさとを思う心をえがいた本の紹介メモを書く。</p> <p>○ 読書発表会をして選んだ本を紹介したり、感想を伝えあったりする。</p> <p>○ 紹介文を聞き、ワークシートに振り返りを書く。</p>				<p>友達に本を紹介するために必要なことを確かめ、メモに書いている。</p> <p>(発言・ノート)</p> <p>○ お互いの紹介文の良さを見つけて書いている。(発言・ワークシート)</p>

10 本時の目標

お互いの「世界一美しいぼくの村」の紹介文を聞き、いろいろな感じ方があることを知り、その良さを見つけて書くことができる。

11 準備物

ワークシート

12 学習の展開

学習活動	予想される児童の反応	支援と評価 (※)
1. 本時のめあてを確認する。		
おたがいのしょうかい文を聞こう。		
2. 紹介する時にはどんなことをどのように紹介したらよいかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・一番心に残ったことを紹介する。 ・人物の行動や言葉を紹介する。 ・読みたいと思う紹介の仕方をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに紹介したいことや紹介の仕方について自分の考えを持たせておく。 ・前時までの学習を振り返るようにノート等に注目させる。
3. 紹介文をワークシートに書く。 ・自分で紹介したいことを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・パグマンの美しさを紹介したい。 ・ヤモの家族の素敵などころを書きたい。 ・戦争がうばったというつらさを何とか紹介したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な児童には、お助けシートを準備する。
4. グループ内で紹介文を交流しあう。	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの紹介文を聞いて、同じところや違うところをとらえ、お互いの良さについて認め合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーを中心にグループの全員で交流できるよう声かけをする。
5. 学習の振り返り 本時のめあてが達成できたか。お互いの紹介文を聞いてどう思ったか。ワークシートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに自分の活動の振り返りをする。 	<p>「みんなの発表を交流して、思ったことや感じたことを書こう。」と助言する。</p> <p>(※)</p> <p>A: お互いの紹介文の良さを見つける中で、自分の読み方の良さについても書いている。</p> <p>B: お互いの紹介文の良さを見つけて書いている。</p>